

第 3 回 APNG Camp 参加報告

牧 兼充

去る 2 月 20、21 日の両日に、台北にて第 3 回 APNG Camp が開催されました。APNG Camp はこれからのインターネットを担う人材の発掘・育成を目的としてスタートし、今回で 3 回目となります。この活動に JPNIC から積極的に参加していこうということで、私は第 2 回から参加し、今回は co-chair を務めました。

さて、過去 3 回の camp でどのような成果が上がったか、と問われると、正直まだまだこれからであるといわざるを得ません。APNG Camp の目的を達成するために何をするのか、という点がまだまだ定まらず、試行錯誤の段階であるからです。インターネットコミュニティから APNG Camp を見た場合、「そろそろ APNG Camp は、インターネットコミュニティにとってどういう貢献ができるのか目に見える形で見せてくれ」という状況だと思っています。

APNG Camp の現状の課題は、参加者が二つのグループに分かれており、その間のギャップをどう埋めるかです。つまり、各国の NIC からの参加者を中心とする、いわゆるインターネット運用グループと、インターネットをメインのフォーカスとしていない組織（たとえば国際異文化交流組織など）からの参加者たちを中心とした、いわゆるインターネットエンドユーザーグループが存在しています。私はこのどちらかのグループにフォーカスを絞るべきではなく、インターネットの発展のためには、双方のグループが共に重要であり、更にその両者の連携が必要不可欠であると考えています。

そのような状況の中で、前回の第 2 回はエンドユーザー系プログラムにシフトしており、運用系プログラムとはややかけ離れている感がありました。そこで第 3 回では、もう少し運用系プログラムを増やす必要があると考えて、インターネットポリシーに関連するプログラムを増強するために、日本から「インターネットガバナンス」、「IDN(Internationalized Domain Name : 国際化ドメイン名)」の二つのセッションを提案しました。この二つのセッションは、運用グループの方々には概ね好評でした。

さて、どのような形で第 4 回のプログラムを組むかはこれからの大きな課題です。日本からは柴田巧さんが co-chair として選出され、彼を中心に進めていくこととなります。なお、私は今回の co-chair の経験に基づいて、第 4 回プログラムは、運用系とエンドユーザー系の二つの柱を立てて、プログラムの全セッションを平行にして、双方を自由に行き来することができる方向性を提案いたしました。

APNG Camp は、今後のインターネット発展のための大きなポテンシャルを持っています。今後の camp において、運用系のプログラムを充実させていくことにより、JPNIC や日本企業にとってもこの camp に参加するメリットを明確にしていくことが可能なはずで、技術的な背景の理解の場、インターネットに関連するポリシーの議論の場、技術を普及させていくためのビジネス化のための議論の場などの役割を担うことにより、その意義が明確化し、参加者の増加、スポンサーシップの確立が可能となっていくかと思えます。

最後のこの APNG Camp の活動を支えて下さった多くの皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。